1. 基本的な考え方

- ① いじめは「どの学校でも、どの子にも起こり得る」ことを認識し、早期発見と迅速な対応に努める。
- ② 「いじめは絶対に許されない」との強い認識に立ち、加害者、傍観者を指導する。
- ③ 常日頃から細かな観察を行うとともに、定期的にアンケート調査や教育相談を行う。
- ④ 家庭や地域に対して、積極的な啓発を行う。
- ⑤ 教職員が児童を傷つけたり、いじめを助長したりすることがないように留意し、いじめられている児童の立場に立って援助を行う。

2. 具体的な対策

(1) 「いじめ対策委員会」の設置……実態の共通理解と対応の協議

校長、教頭、教務主任、児童指導主任、該当学年主任、担任、養護教諭、教育相談担当、町教委教育相談員、スクールカウンセラー、その他管理職から指示された者

- ・校長が主宰し、年1回4月に開催する。また、必要に応じて随時開催する。企画、運営は教頭が行う。
- ・把握した情報をもとに、関係職員で協議を行い事実関係を明確にした上で、指導方針、指導内容及び役割分担等について具体化する。
- ・教育委員会や児童相談所など関係機関等との連携や、スクールカウンセラー、異校種間の連携も視野に入れて対応する。

(2) 「いじめ相談窓口」の設置

担任の他に相談窓口は以下の3者とし、下記の通り取り組むこととする。

① 教育相談担当者

- ・常時、相談を行える体制を整え、相談窓口について教職員や保護者、児童に啓発を行うとともに、相談を希望する児童に対しては、積極的に対応する。
- ・意図的、計画的にいじめに関するアンケートや教育相談を実施する。
- ・アンケート結果から、担任や児童指導主任と連携して教育相談、児童指導の必要性の有無を確認する。

② 児童指導主任

- ・教育相談担当者と連携して、児童指導の必要性の有無を確認するとともに、必要に応じて積極的に相談に対応する。
- ・職員会議後や各種研修後に、配慮児童等の情報交換を実施して情報を共有する。

③ 養護教諭

- ・保健室に来室する児童の様子を観察し、気になる児童に対しては、担任や児童指導主任と連携して対応するとともに、積極的に相談に応じる。

※担任及び3者は、必要に応じて臨機にいじめ対策委員会の開催を教頭に進言し、該当児童、関係児童に対する対応について共通理解を図る。

(3) いじめの未然防止のための取組

① 児童への対応

- ・学級指導等を通して、いじめは自分たちの問題であるという当事者意識を学級全体で育てる。
- ・「いじめは人間として絶対に許されない」という意識を全ての児童に徹底する。
- ・いじめを傍観することは、いじめを助長することになる行為であるという自覚を促し、いじめを発見したら教師や友達に知らせるなど、自らの意志で行動していじめをやめさせるように指導する。

② 保護者の啓発

- ・学校で取り組んでいるいじめ防止対策について、各種便りで知らせるとともに、「いじめは絶対許されない行為であること」、「傍観することもいじめの助長につながる事」、「我が子や周囲の児童について、気になることや心配なことがあったら速やかに相談すること」などを徹底して啓発する。

③ 職員研修の実施

- ・人権教育研修、児童指導に関わる研修等、職員研修を意図的、計画的に実施する。
- ・いじめに関する校外研修等に参加した場合は、全職員で共通理解するために出張者は必ず復命する。

(4) いじめの早期発見のための取組

① 学年・学級経営、諸活動の中で児童の変化を見逃さない。

- ・定期的なアンケートの実施
- ・児童と接する時間の確保〔ゆとり〕
- ・態度・顔色・生気などに注意
- ・教科等の提出物への取り組み状況、成績の変動に着目
- ・学習用具・持ち物忘れ、紛失、新品購入、落書き要注意
- ・休み時間等の過ごし方〔友人関係の変化〕
- ・日記、連絡帳などの記載事項
- ・スクールカウンセラーとの情報交換と情報共有

② 保護者との連携を密にし、円滑なコミュニケーションの中から発見する。

- ・学校だより、学年だより等での情報提供、協力依頼、早期発見のための啓発
- ・出欠、早退、遅刻、その他こまめに連絡を取り合う中から変化をみつけ、必要に応じて教育相談を随時行う。
- ・学年・学級保護者会の話から具体的な情報を取得する。

③ 地域との積極的な交流の中から情報を得る。

- ・ P T A本部役員、補導委員、学年委員さん等との情報交換
- ・ 近隣小・中学校、子供会育成会、公民館等との連携
- ・ 町対策委員会、民生委員、主任児童委員さん等との連携

(5) いじめ発見後の対処

① 発見者 _____ 校長〔教頭〕に報告
又は相談を受けた者 _____ 〔学年主任、児童指導主任、教務主任経由も〕

② 校長 _____ 担任、該当学年主任に実態把握を指示

③ 児童指導主任 _____ 実態把握〔関係児童、保護者等〕
学年主任〔学級担任〕 _____ 調査結果を校長に報告

- ・ 当該児童をいじめから救うために早急に対応する。
- ・ 当事者だけでなく、周囲の児童からも話を聞くなどし、事実関係を慎重かつ正確に把握する。
- ・ 複数の教職員で連携して対応するなど、事実を把握するために工夫する。

☆確認する内容

○いつ（時間）	○どこで（場所）
○だれが、だれを（関係者）	○どんないじめか（内容）
○いじめのきっかけ（背景と要因）	○いつから、どれくらい（期間）

- ・ 把握した内容は速やかに管理職や関係職員に報告すると共に、全職員で情報を共有する。
- ・ 把握した児童の個人情報については、取扱いに十分留意する。

④ 校長 _____ 判断、対応指示

⑤ 校長〔教頭〕 _____ 町教育委員会・PTA への報告、協力要請など
_____ 報道機関への対応

⑥ 該当学年を _____ 対応方針を確認し、支援・指導する
主とした組織

⑦ 具体的な対応

<いじめられた児童・保護者への支援>

- ・ いじめられている児童の立場に立ち、児童の気持ちを受容的・共感的に受け止める。
- ・ 状況に応じて班替えや席替えなどの配慮を行うとともに、心のケアに努める。
- ・ 全力で守り通すという教師の強い姿勢を伝える。

<いじめた児童への指導>

- ・いじめは絶対に許されない行為であることを毅然と指導する。
- ・いじめられた児童の気持ちを考えさせ、いじめが他者の人権を侵す行為であることを理解させるとともに、他人の痛みを理解できるような内面に深く迫る指導を粘り強く行う。
- ・深刻ないじめを繰り返し行う児童に対しては、別室指導、出席停止や警察との連携による措置を含め、教育委員会と相談しながら対応を検討する。

<いじめた児童の保護者への対応>

- ・学校で把握した事実関係は、速やかに正確に説明する。
- ・いじめている子の行動が変わるように、教師として努力していくこと、そのためには保護者の協力と当該児童に対する保護者からの継続的な指導が必要であることを伝える。
- ・いじめられた子及びその保護者に対する誠意ある対応が必要であることを伝える。

<全ての児童への指導の再確認>

- ・学級指導等を通して、いじめは自分たちの問題であるという当事者意識を学級全体で育てる。
- ・「いじめは人間として絶対に許されない」という意識を全ての児童に徹底する。
- ・いじめを傍観することは、いじめを助長することになる行為であるという自覚を促し、いじめを発見したら教師や友達に知らせるなど、自らの意志で行動していじめをやめさせるように指導する。

<全ての保護者への対応>

- ・状況によって、保護者会等の場で保護者への説明を行う。その際には、個人情報取扱いに留意しつつ、事態の概要や今後の学校の対応方針等を説明し、協力を求める。

<その他の配慮事項>

- ・場合によっては、地域の方々についても対策を考える。
- ・児童の指導は担任、学年主任が、〔場合によって児童指導主任、管理職も〕行う。保護者等には学年主任、管理職が対応する。
- ・指導は、点や線ではなく、広く目を配り、深く掘り下げて行う。また、徹底的な指導により、再発、潜行の絶無を期し、卒業まで関係者全員（児童・教師・保護者）で見守る。

⑧職員研修 _____ 教師の言動がいじめを誘発していないか

チェック項目

- ① 差別的言動はないか
- ② 嘲笑・侮辱的な言葉を投げつけていないか
- ③ 学級内で特定の児童を過度に注意していないか
- ④ 不正に対し、毅然とした態度で臨んでいるか
- ⑤ 知識・理解の程度だけで児童を評価していないか
- ⑥ 児童の個性・よさを認め伸ばそうとしているか

3. その他

<いじめ防止のための長期的課題>

- (1) 児童指導、教科指導等の充実 → 仲間とともに楽しい学校
- ・わかる授業の実践、習熟の程度に応じた授業（授業で活躍できる場の設定）
 - ・学業指導の充実（帰属意識、規範意識の高い学級づくり）
 - ・教育相談、児童理解の方策の工夫と充実（アンケート、個人ノート、面談等）
- (2) 道徳、特別活動、人権教育等の充実 → 心豊かで、正・不正に敏感な児童
- ・道徳的判断力〔自己抑制〕
 - ・おもいやり、感謝する心、感動する心
 - ・人権尊重、生命尊重の精神
 - ・自己を見つめ、自己を生かそうとする心
- ）の育成
- (3) 開かれた明るい学校作り
- ・児童のこと、教育の問題が自由に話せる学校づくり（共通理解と意識啓発）
 - ・PTA活動の活性化（子どもの成長のためにともに協力する関係）
 - ・地域の関係諸機関との双方向の情報交換（各種団体との連携）
 - ・地域の教育力の回復を図る。（各種たより等の発行、学校公開等の実施）